

一般演題【感染症】 高気圧酸素治療がClostridium difficile感染症におよぼす影響の後方視的検討

室屋大輔 灘吉進也 今林和馬 甲斐雄太郎
金子英雄 増田 徹 山田小綸 下河邊正行
共愛会 戸畑共立病院

【緒言】

Clostridium difficileは偏性嫌気性の芽胞形成性のグラム陽性桿菌であり、抗菌薬関連下痢症(Clostridium difficile infection; CDI)の主要な原因微生物である。まれに重症化したり、再発率が高い疾患とされる。一方でClostridium perfringensによるガス壊疽において高気圧酸素治療(HBO)は、嫌気性菌の発育を抑制し、白血球の抗菌作用の増強などの機序で治療としての地位が確立している。近年CDIにおいてはサイトカインが病態・予後に重要であることや、二次胆汁酸によるCD増殖の抑制効果などが報告されている。さらにHBOは炎症性サイトカインであるIL-1,IL-6減少などの抗炎症効果と、微生物叢の変化による胆汁酸の増加が報告されている。今回我々はCDI患者においてHBOが予後に影響を及ぼすかを後方視的に検討した。

【対象と方法】

対象は2013年1月から2022年12月の期間で当院においてCDIの診断となった195人のうち、詳細な診

療情報を収集し得た入院患者は111人。うちHBO治療期間が診断時期と解離している19例を除いた92例を対象とした。HBOが施行されていた16例(HBO群)とHBO施行されていなかった76例(非HBO群)を後方視的に検討した。HBOの適応は脳梗塞5例、イレウス4例、癌2例、急性末梢血管障害2例、他3例であった。

【結果】

平均観察期間は1961日で、2群間の単変量解析では重症度やICUでの集中治療率や手術などのクリニカルイベントに有意差は認めなかった。短期予後として入院期間、死亡率に有意差は認めなかったものの、HBO群は有症状期間が短く(6.2vs13.6 day, p=0.0217)、再燃率が低かった(0 vs 22.4%, p=0.0363)。長期予後としては全生存期間に有意差を認めなかった。

【結論】

Limitationとして単施設で症例数が少なく、後方視的な検討ではあるものの、HBOは抗炎症効果や微生物叢への影響による胆汁酸の増加などの機序でCDIに対して抑制的に働き、有症状期間の短縮と再燃抑制効果がある可能性が示唆された。

